

分倍河原駅周辺まちづくりの方向性

「居心地が良く歩きたくなる」まちづくり

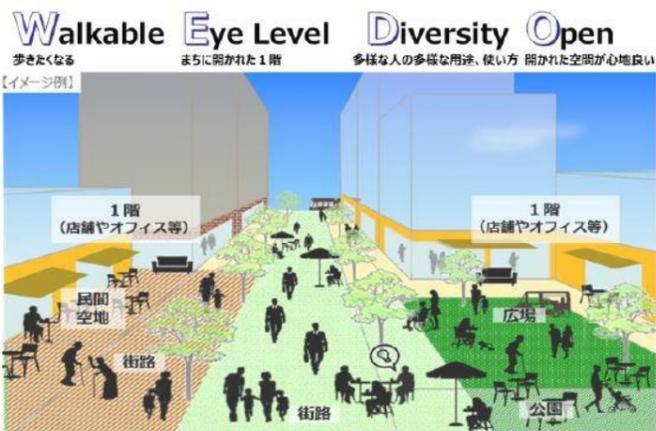
分倍河原駅周辺の方向性

商店街～駅～南側駅前広場～商業・業務施設を結ぶ「にぎわい軸」について、歩行者中心のまちづくりを進めるため、関係者の協働により居心地が良く歩きたくなるまちなかの創出を図る。

国の動向

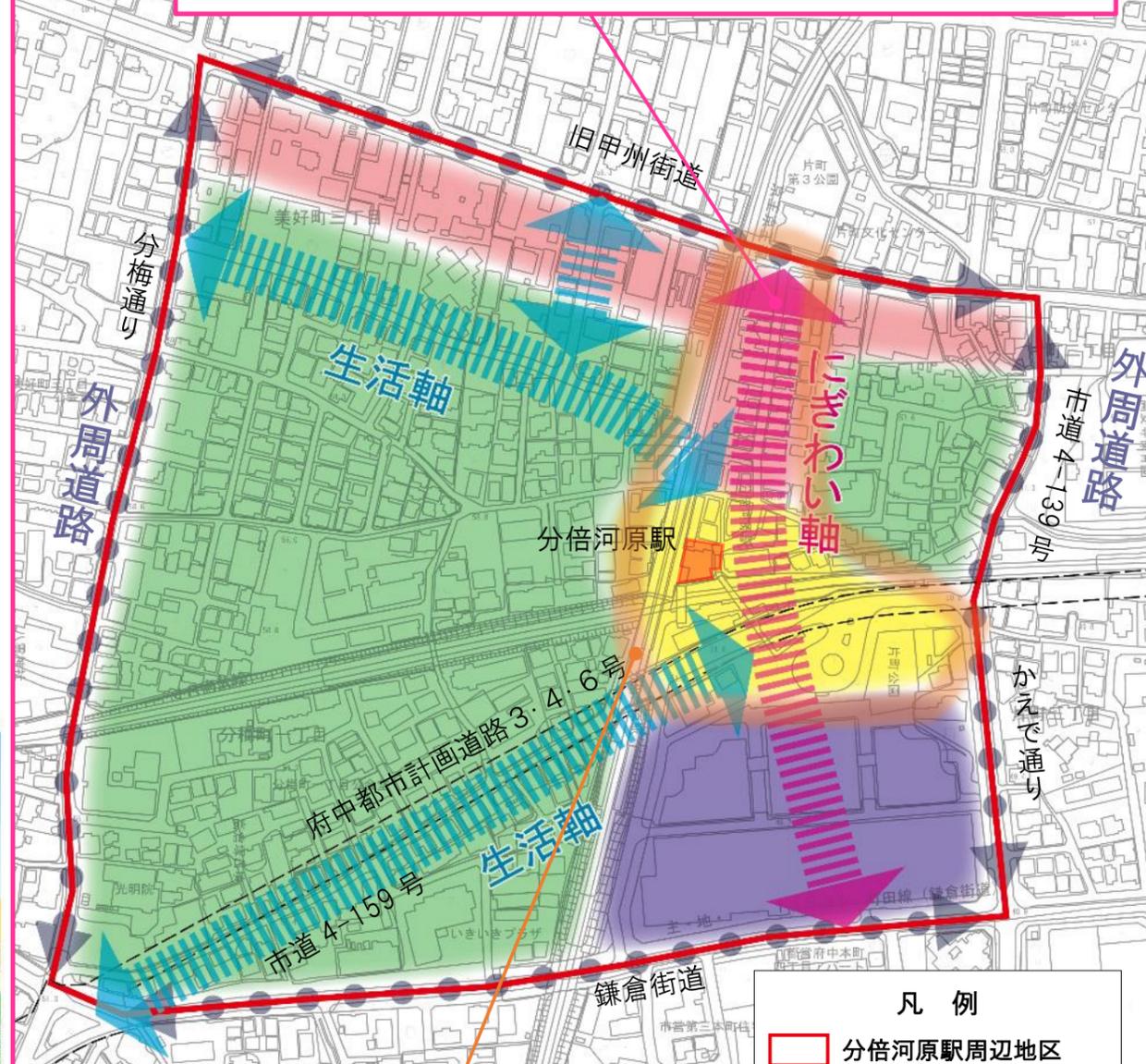
人口減少社会の到来により、都市間競争のさらなる加速が予想される中、国は都市におけるイノベーションの創出と人間中心の豊かな生活実現のため、官民のパブリック空間をウォーカブルな人中心の空間へ転換し、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成していくことを推進している。

⇒府中市は、国が進める「居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり」に賛同し、令和2年10月に「ウォーカブル推進都市」に登録



◆分倍河原駅周辺地区の将来像
「にぎわいがつながり・ひろがる
歩行者中心の 人に優しい コンパクトなまち」

にぎわい軸＝「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の範囲



「駅まち空間」の範囲イメージ

- 凡例
- 分倍河原駅周辺地区
 - 公共公益機能強化エリア
 - 商業住宅エリア
 - 居住環境保全エリア
 - 業務商業エリア

周辺とつながる「駅まち空間」
としての一体的整備

分倍河原駅周辺の方向性

分倍河原駅の改良や駅前溜まり空間、東西・南北自由通路のみならず、南側駅前広場や商店街など周辺街区と連続する空間を「駅まち空間」として一体的整備を図る。

駅まち空間の整備においては、コロナ禍における人々の行動の変化を踏まえた新しい街路空間の考え方を導入するとともに、AIやIoT等の先進的技術を活用する。

国の動向

新型コロナ危機を契機に、働くにも住むにも快適な環境、ゆとりあるスペースへのニーズが高まっていることを受け、国は安全性、快適性、利便性を備えた「駅まち空間」の再構築を推進している。

駅まち空間とは…一体的な空間の活用や機能の連携が期待される、駅や駅前広場を中心とした空間

